

1 自主防災組織とは

1 自主防災組織の必要性

・大規模災害が発生した直後には、ライフラインの停止、道路の寸断などにより、防災関係機関の活動が制約されることが予想されます。

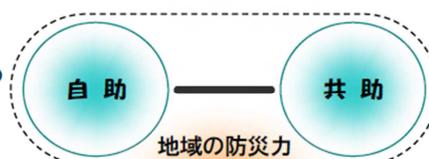
・防災対策は、「自助・共助・公助」^{※1} の連携が必要とされていますが、阪神・淡路大震災では、生き埋めや閉じ込められて、救出された方のうち、**約9割が自力で脱出などの「自助」と隣近所の人などに救出された「共助」となっております。**

・また、「公助」による救出は数%に過ぎなかったともいわれており、地域における自主防災活動の大切さが改めて認識されました。

・このように、大規模災害が発生した際には、日々、顔を合わせている隣近所の人たちが集まって、互いに協力し、励まし合いながら組織的に防災活動に取り組むことで被害は最小限に抑えることができると言われておりますので、日頃からの住民同士の結びつきが大切となります。

※1

自分の身を自分の
努力によって守る



地域や近隣の人が
互いに協力し合う

地域の防災力

災害時の
被害を抑える

公助

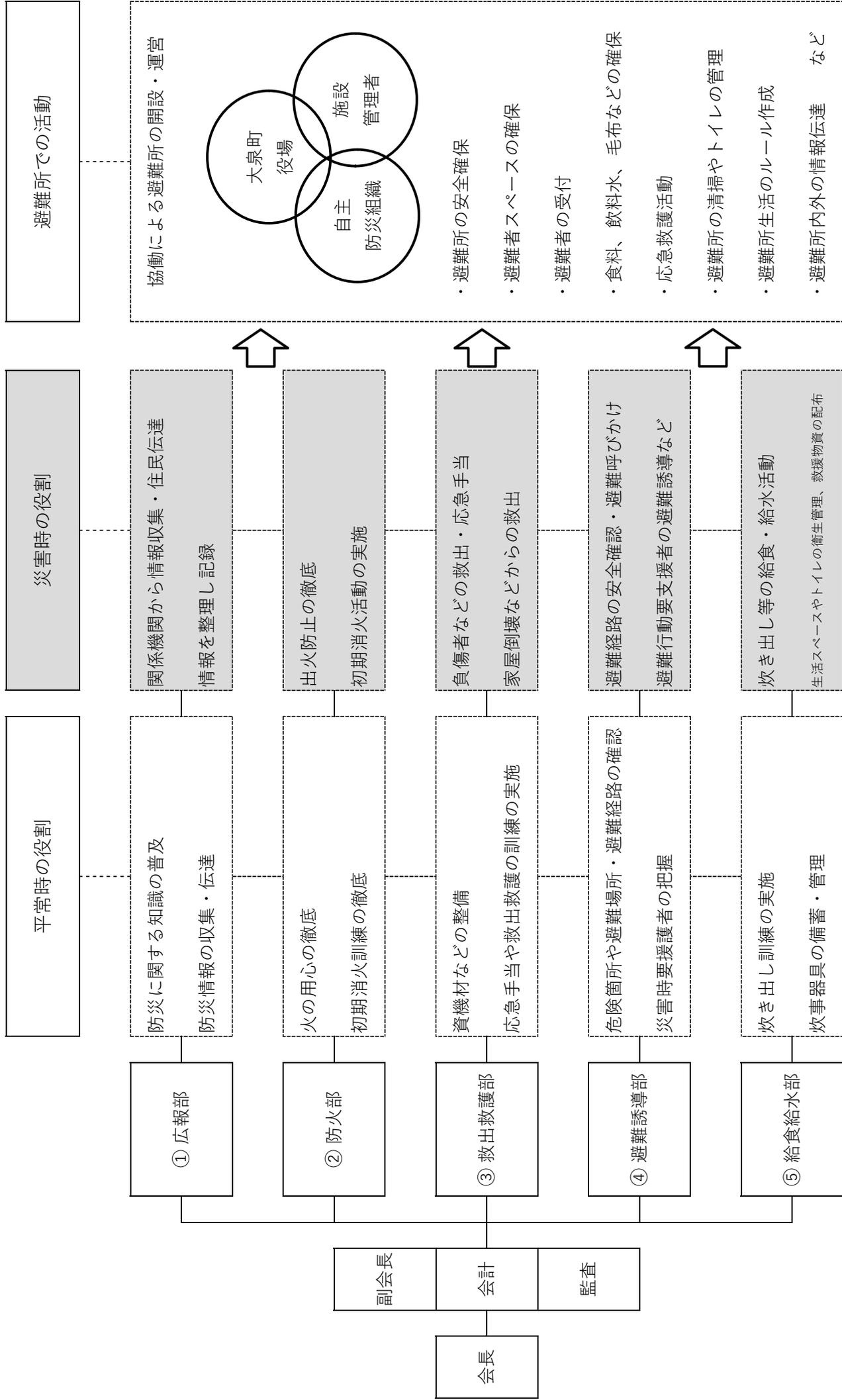
国、都道府県、市町村等の行政、
消防機関による救助・援助等

2 自主防災組織の役割

災害に備えて役割を分担しましょう

- ・ 災害時には、隣近所や町内の班など、地域に密着した住民の集まりの中でお互いに助け合うことが大切です。自主防災組織は隣近所や班などを取りまとめ、地域住民が一体となって平常時の防災活動や災害時の助け合いに取り組む組織です。
- ・ 日頃からの災害への備えに加え、特に災害発生直後にはさまざまな活動が必要となります。
- ・ 地域を守るため自主防災組織には**①広報部**・**②防火部**・**③救出救護部**・**④避難誘導部**・**⑤給食給水部**の5つの役割（4ページ参照）があります。
- ・ 自主防災組織では、地域の力を発揮できるよう活動内容や役割分担に応じた活動班を編成しましょう。また、それぞれの活動班で皆さんが積極的に自主防災活動に参加できるような仕組みを話し合う必要があります。





※状況に応じて、各部が協力し活動します